



ユース・ティーン リトリート 2020

2020年1月3～5日（2泊3日）に、JEGが中心となって、今年もユース・ティーンリトリート（以下、ユティカ）が開催されました。会場は Greifensee 近くの Cevi-Ferienhaus です。『神のみ声を聞くーパウロの生涯から学ぶ』をテーマに、たくみ先生とマイヤー先生よりメッセージを語っていただきました。

新しい年の初めに、スイス・ドイツ・フランス・フィンランド・イギリスから総勢40名弱の青年が集まり、ともにみことばに聞き、祈り、分かち合う素晴らしいひと時が持てたことを感謝するとともに、全てを備え、最初から最後まで導いてくださった主をほめ讃えます。

以下にご紹介するのは、ユティカを通じて受け取った恵みの証しと感想です。（文末の国名は居住地・滞在地です。）

ピーケンブロック 恩恵

びっちりとしていたスケジュールのお陰か、キリスト者の集いより勉強出来たと思います。スモールグループで深い意見交換が出来た事も良かったです。（ドイツより）

佐井 以諾

私のユティカ2020での学びは、日々神とともに歩むことの大切さである。クリスチャンとしては当然に思えることだが、その意味を自分の中で明確化し、行動に移すこと、そして継続していくことは簡単ではなかった。特に私は時間をかけて祈り答えを求めるよりも、先に体が動いてしまうタイプで、神様の言葉を受け取ることをついにしがらにしてしまう傾向が強い。その中で、マイヤー先生が語っておられたように、神様からの導きは、日々の小さな積み重ねの結果、確信するものであり、改めて、自分の弱さを認識した上で、日々のデボーションを継続していくための一歩を踏み出す機会を得られた。また、ユティカの始まりから現在までの活動過程を聞き、信仰を持って踏み出した一歩を神様は豊かに用いてくださることを再認識することができたことも大きな恵みであった。最後にユティカ2020の準備委員、参加者、そして全てを導き守ってくださった神様に感謝したい。（スイスより）

ゲルスタ アンドレアス

Having prepared my testimony for Yuteka in Japanese a month before the deadline of my master thesis, I arrived quite tired and thought to myself, "Lord, could the timing not have been different?" But I was so blessed by the spiritual input from Takumi Sensei and Meier Sensei that I went home encouraged and strengthened. Ironically, the topic of my testimony, which was guidance, was the topic I learnt the most about! The message on Acts 15-16 on taking a step in faith and being ready for God to stop us, encouraged me in my steps towards the Middle East. The same principle applied to marriage cleared up some of my wrong thinking about seeking a calling towards marriage. Marriage is the logical step and we should pray in that direction but be willing to accept a 'No' from God, too. The best part was the quiet time where I was able to process all I'd heard and also spend time with the Lord. ユースリトリートに参加できたのは、本当に神様のおかげで良かったです。奉仕もさせていただきましたので、自分自身が一番恵まれたのでは、と感じました。神様についても色々なことをたくさん学ぶことができました。感謝でした。(スイスより)



賛美チーム



Greifensee の朝焼け

教会に生きる喜び 藤原 誠

今回のキャンプは自分にとって、図らずも、教会の交わりの中で今後の生き方の方向性について信仰的・聖書的な視点から考えさせられる機会となった。愛を持って一人一人に声をかけイエス様に従う歩みを励まし祈ってくれる人たちがいて、聖書のみことばが解き明かされ、それを真剣に学びまた分かち合う交わりがあり、そして誰でも分け隔てなく受け入れ迎え入れる楽しい雰囲気がある。もちろん反省点や欠けもあったが、おぼろげながらもそこには確かに神の国の姿があった。教会の中で生き教会の中で人に仕える喜びを実際に味わいながら僕に示された一つの方向性は「愛を追い求め、教会を成長させる(第一コリント14:1-4)」ということ。自分を高める生き方から、神様の言葉によって人を力づけ励まし慰め、教会を成長させる生き方へ。この道は主イエス様が歩まれた神の国へと続く道。そしてそれは、一人で歩く道でもない。またみんなで集まって、共に神様を賛美したい。(ドイツより)



後藤 千晶

今年のキャンプでは、初めてスモールグループリーダーを担当させて頂きました。リードするにあたり、前日に心の準備をしようと思い、「グループリーダーの手引き」を読んだのですが、「私には荷が重すぎる…」と言う思いに…。ですが、いざやってみると、副リーダーとメンバー、そして神様の大きなサポートの上で進めることが出来て、リラックスして臨めました。皆で小さな証をしあい、お互いに祈り合ったりと、かけがえのない時間を過ごすことができ、心から感謝します。

またサポートする側に回ることで、誰かの時間や労力が費やされて成り立っているのだと、今一度知ることが出来ました。何かを決め進めるときに、その都度皆で祈り合ったのが印象深いです。

「私はまだ、一昨年洗礼を受けたばかりのベイビークリスチャン」から、さらに成長するきっかけを与えてくださった神様に感謝します。私たちの信仰生活はここからです。今置かれている、ココストラスブルで信仰の種まきのお手伝いができるよう、これからも主と共に歩んでいきたいです。（フランスより）

佐藤 春香

数年ぶりに聖書の学びに集中できる場に参加できたことに感謝です。特に2日目の「静まる時間」では、悔い改めと決心が与えられました。まず、悔い改めたことは自分の信仰生活の杜撰さです。日本に住んでいた頃は、大体5個くらいの祈りのメモを朝起きた瞬間か夜に寝落ちする前に祈っていました。しかし、約2年半前にドイツに来て以来自分の生活と勉強で余裕がなく、その習慣もなくなっていました。また、聖書通読も徐々に遅くなり、とうとう月一で少し読み進める程度になってしまいました。そして、静まる時間で本当に2年半ぶりくらいに神様と一対一で向き合った時、どれだけ自分が祈っていなかったか、家族や職場のためにも自分のためにも全てを神様の前に注ぎ出して祈ることがなかったかを実感させられました。祈りの習慣を再開すると決心し、ユティカから帰宅しました。本当に貴重な時間と導きとをありがとうございました。（ドイツより）



左上：フリータイムに辺りを散歩

右下：食事の交わり

今村 葉子

ユース&ティーンリトリートも今年三年目を迎え、今年も食事スタッフとして参加させていただきました。ユティカに参加する度にいつも心から喜びがあふれます。その喜びをまず、わかりやすく具体的に挙げてみました。

1. ユースやティーンの方々の賛美や笑い声を聞きつつ食事を作ること！
2. 毎年新しい参加者がいるのに、前からずっと友達だったかのようにみんなが仲良くしている姿！
3. 熱心にメッセージを聞いている姿！
(ゲームに夢中になるのと同じぐらいみんなが真剣なのが凄い)
4. みんながとてもオープンに心の中を打ち明け合っている様子！
5. みんなの証が聞けること。

そうです、私が食事スタッフとして参加する喜びはこのみ言葉、

「見よ。なんという楽しさだろう。兄弟たちが一つになってともに生きることは。それは頭に注がれた貴い油のようだ。それはひげにアロンのひげにまで流れて衣の端にまで流れ滴る。それはまたヘルモンからシオンの山々に降りる露のようだ。主がそこにとこしえのいのちの祝福を命じられたからである。詩篇133篇」

を実際に体験出来ることなのです。そしてこの私の個人的な喜びは最終日の主日礼拝でJEGの兄弟姉妹の方々も参加して、共に素晴らしい神様の御業をほめたたえ合うことで神様のみ言葉が成就したからなのです。

なぜなら、神様の恵みはユティカを通して溢れ出て、詩篇の如く油のように流れ滴り、ユティカをバックアップしているスイス日本語福音キリスト教会、そして参加者の皆さんが帰っていく地にまで露のように及んで行くからです。

神様のご計画はなんて素晴らしい。

神様、主を愛するユースとティーンを送ってくださったこと、心から感謝します。この私の喜びはただただ、あなたの御名と栄光にあります。(スイスより)



最終日の礼拝メッセージ



みんな仲よし♪



チューリッヒ観光



使徒の働きから
メッセージ



Schloss Greifensee
の前で

渡邊 航

今回のユティカで一番印象的だったのはスモールグループでの交わりです。私のグループはメンバー同士のほとんどが初対面でしたが、みなすぐに打ち解けとても深い交わりが与えられました。そして熱い交わりと深いセッションを続ける中である姉妹が信仰に導かれました。救いの瞬間を間近で見て、イエス様は2000年前の存在なのではなく今も生きておられ、この場にいて下さっていることを体験することができました。自分自身の救いの体験でないのにもかかわらず、自分が救われた時のような喜びを感じました。

ヨーロッパにはたくさんの若いクリスチャンがいます。このユティカという空間が神様に引き続き用いられる場であってほしいと強く願います。(ドイツより)



体感する宣教地図



アレックスにお別れ



朝のラジオ体操



トークタイム「結婚」

▶▶ 次回 ▶▶

ユティカ 2021
1月2-4日
開催決定!